

二〇二二年二月一四日(参加者二名)

曾根崎の朝寒々と人まばら	凡士
浄瑠璃のお初見下ろす蚤の市	凡士
煤逃げの輩で混める飲み屋路地	凡士
義士の日の浪速にお初惚びけり	凡士
ウインドは人形の国クリスマス	豊実
店頭をポインセチアが占む茶房	豊実
吹き抜けのエレベーターや大聖樹	豊実
ポインセチア商店街を明るうす	ぼんこ
山茶花や重なりあへる恋の絵馬	ぼんこ
葉屋もリース吊るしてクリスマス	ぼんこ
就職の決まり饒舌みかん剥く	よう子
父見舞ふ聖夜の母の笑顔かな	よう子
一年の締めは第九と決めてをり	よう子
冬麗のわが影長し鴨川堤	あひる
川底に網目を揉める冬日かな	あひる

豚まんの蒸籠七段湯気吹きぬ

枕木が霜に白変里の駅

ハート型絵馬犇めきて宮小春

曾根崎の路地抜けてより宮小春

赤ポスト目鼻つけられサンタ帽

受付はマスク美人や診療所

淀殿の墓碑にかつ散る紅葉かな

横文字のみくじ結ばる宮小春

予定はや詰込みすぎの師走かな

未来への約束秘めし冬木の芽

軒下にライندگانスや大根干す

定例会みのある選

二〇二二年二月一四日(参加者二名)

小袖

小袖

せいじ

せいじ

なおこ

なおこ

はく子

はく子

もとこ

もとこ

ふさこ